

くまもと物語 18

熊本のむかし話 その二

百太郎堰

球磨郡多良木町

球磨郡多良木町に、百太郎溝という水路があります。この用水路は、鎌倉時代の終わりごろから江戸時代まで約四百年近くもかかってできあがったといわれ、その堰の建設は困難をきわめ、次のような話が伝えられています。

「おい、大変だ。堰が崩れたぞう。早くみんなに知らせてくれえ。」



堰とは大きな川の途中から水を取り出す仕掛けのことで、毎年球磨川の大水で流されてきました。村人たちはがっかりして、祭りの時期になっても元気がでません。ところが祭りの前夜、村の世話役の一人の夢枕に白いあごひげの老人が現れて、こう告げました。「明日の祭りに、はかまに横縞の布でつぎをあてている男がやってくる。その男をつかまえて、堰の柱の下に生き埋めにして人柱にせよ。今度つくる場所は、今の所から百間(約一八〇メートル)上流に移すがいい。」

朝になり、世話役はそのお告げにしたがい、ほかの世話役たちとお宮のあちこちに立って、お告げの男を探しました。「いたつ、いたつ。」



百太郎堰(巨大公園内)

はかまの腰のあたりに横縞の布でつぎをあてている男が歩いていきました。世話役たちはさつそく役所のお役人に昨夜のお告げの話をし、お役人はそのことを人吉の殿様に伝え、今年の秋から冬にかけて、もう一度堰をつくることに決まりました。

そのころ男は役所に閉じ込められていたが、村人たちもそのうわさを聞いて、あわれに思っていました。

さて、秋になり工事が始まりました。今度こそは、と村人たちは精一杯働きました。そして深い穴が掘られ、やつれはてた男が中に下ろされました。土や石ころで男が埋まるにつれ、村人たちの祈りの声は、悲しい泣き声に変わっていききました。

年が明け、梅雨をむかえ、これまでになく激しい球磨川の流れとなりましたが、堰も用水路への取り入れ口も、びくともしませんでした。村人たちは人柱になった男に大変感謝し、その男の名を取って「百太郎堰」と名付けました。お墓の代わりにと、お地蔵様がまつられ、今も百太郎公園の近くに残っています。



百太郎公園



フルーティロード



くに 郷づくり通信

芦北地域

みなまは今が旬! ~みなま総合物産展~

地域の元気な取り組みを応援している芦北地域振興局から、お得な情報をひとつ!

今年も「みなま総合物産展」が開催されます!

「農業祭」では、大根のチャリティー配布、野菜果物ふれあい市。「海の幸フェア」では、しろこチャリティー配布、魚のつかみどり大会、魚の重さ当てクイズ。「物産展」では肥料チャリティー配布、各種露天市など楽しい企画が目白押し!

その他にも芸能大会、お楽しみ



100円くじ、フィッシング大会など、イベント盛りだくさんの楽しい物産展です。

皆さんのたくさんのご来場をお待ちしております。



●お問い合わせ先/水俣市商工観光課観光振興係 ☎0966-63-1111 (内線346)

宇城地域

元気な姿を全国に! ~不知火町松合の復興とまちづくり~

ました。その保存のために、住民自らが建築基準を設け、住民協定を締結し、町では、土蔵白壁の改修費用の一部を助成しています。

また、被災地区では漁港、土木公共施設復旧工事と併せ、災害に強いまちをめざした復興計画を検討しています。

台風のため中断していた「まっちゃ朝市」も、毎月第3日曜日に開催しています。土蔵白壁の町並みと朝市に、ぜひお越しください。

昨秋の台風18号災害により、12名もの尊い命が奪われた不知火町の松合では、災害からの復興と土蔵白壁を生かしたまちづくりを進めており、宇城地域振興局は、その活動を支援しています。

松合には、土蔵白壁造りの建物が約70棟残されており、風情ある町並みは「くまもと景観賞」を受賞し



松合郷土資料館



●お問い合わせ先/不知火町企画課 ☎0964-33-1111 (内線221)



「県からのたより」へのご意見をお待ちしています。

あて先 〒862-8570 熊本県広報課 「県からのたより」係 ※県庁の住所は不要です。 ☎096-385-2096 FAX096-386-2040 E-mail kouhou@pref.kumamoto.jp

12 総広 ③001-4



ラジオ テレビ 広報誌 県広報のご案内

県民情報誌「コラためんる」

県民情報誌「コラためんる」